

第144回日本医師会臨時代議員会出席記

代議員 小 熊 豊

3月31日に第144回日医臨時代議員会が開催されました。丁度東京では桜が満開となり、翌日には新元号が発表されるという日でしたが、日本各地から360名以上の代議員が集合されました。

前日の30日夜には長瀬会長、日医の中川副会長、北海道選出の代議員、随員の道医職員が集まり、打ち合わせ会を行いました。今回は格別な問題もないためスムーズに終了し、懇談会に移行、楽しい時間を過ごしました。

翌日の31日、朝9:30から代議員会が開かれ、横倉会長のご挨拶から始まりました。

超高齢化社会の到来を目前にして、現在の医療を取り巻く課題と日医としての5つの取り組みを挙げられ、人生100年時代に向けた未来に対し責任を果たしていくと述べられました。詳しい内容は別紙に掲載されますのでここでは省略しますが、様々な改革・取り組みが、実効性を発揮して早期に実現されることを大いに期待したいと思いました。

次いで平成31年度日医事業計画、予算案が中川、今村副会長からそれぞれ説明され、了承されたのち、会費減免、裁定委員補欠選任の議案が認められました。

その後代表質問が行われました。従来は代表質問、個人質問に分けて個別に質疑がなされていましたが、今回からは各ブロック毎に2つの代表質問を行う形に改められ、同一質問に対しては一括して回答、答弁は担当常任理事が行い、補足がある場合に会長、

副会長が答える方式に改められました。全体で16の質問があり、活発な関連質問がされた結果、10時30分頃から昼食休憩45分を挟み、午後3時30分頃までびっしりと質疑が行われ、中身も濃く、勉強にはなりましたが大変疲れました。

北海道ブロックからは3番目に山下先生がキャッシュレス決済に関する質問を、最後の16番目に今先生が北海道胆振東部地震の経験から災害対応の問題を質問されました。他には医師不足と確保対策、児童虐待、麻疹対応、消費税、地域医療構想調整会議、外来医療機能偏在対策、妊婦加算、外国人看護師養成等の問題に対して質疑が行われました。

地域医療構想調整会議に関する質問の中では、中川副会長から公立・公的病院の機能の重点化、代替機能の有無、再編統合等の可能性の問題について議論すべきこと、また公立病院に対する交付税措置の問題等について説明がありました。中川副会長の話は、私も公立病院の代表として参加している厚労省の地域医療構想に関するWGで協議されている内容に基づいていましたが、日医の代議員に対する説明では、公立病院に厳しくとのことで、少々驚きました。公立・公的病院にも改善しなければならない点が多々ありますが、公立病院は住民の意思によって地方公営企業法の下に運営している立場にありますので、地域々々の特性、事情を踏まえた協議を精緻に進めることが肝要であると強く感じました。

「医師資格証」を持ちましょう

診療情報提供書等へのHPKI電子署名に対応しています



<問い合わせ先>

北海道医師会 事業第一課

TEL 011-231-7661

<http://www.hokkaido.med.or.jp/doctor/credential.html>

日本医師会電子認証センター

<http://www.jmaca.med.or.jp/>

『医師資格証』はHPKI(保健医療福祉分野公開鍵基盤)の枠組みを使った日本医師会認証局が発行する医師資格を証明するカードです